

全国一斉学力テスト 反対！ 子どもの世界にも格差を持ち込む

エッ？

子どものデータをベネッセなどがにぎる！

文部科学省が来年度の4月24日に行おうとしている「全国一斉学力テスト」。

この問題について市教委指導課と交渉をもちました。

指導課長は、「教育委員会内の関係課で話し合った中で、①本来の目的から離れ、競争が煽られ、序列化につながる恐れがある。②本来の教育課程が曲げられる。③個人情報を守られるか？④配慮のいる児童・生徒がどのような形で参加できるか？といった問題点が指摘されたが、国が一定の責任を持って教育施策の把握を行うとするものであり、実施する価値はあると判断しているし、実施せざるを得ない。」と答弁。

全教はこのテストの数々の問題点を指摘。

特に、今回の調査は、①文部科学省がベネッセコーポレーション（小学校）と

NTTデータ（中学校）の民間機関に委託して全面実施するものであり、個人情報報を民間機関が握ることになる。

②東京都の状況を見ても学校間競争に利用されないという補償はどこにもない。

こうした問題点を指摘し、「愛知県の犬山市は実施しない方向が一番望ましい。学力の実態を把握し、今後の施策に生かすのであれば、悉皆での調査ではなく、抽出の調査で充分である。豊中市の教育委員会内の関係課の協議でも問題点が指摘されているのであれば、学校現場からの問題点の指摘も含めて再検討すべきである。」と主張しました。

組合からの指摘を、教育委員会関係課に報告し、検討した結果に基づき交渉をあらためて、行うことになりました。



2007年3月5日
NO. 388

とよなか

全教豊中教職員組合

〒561-0874

豊中市長興寺南3-5-2

TEL (06) 6865-3190 FAX (06) 6865-3191

Eメール zenkyo-toyonaka@tctt.zaq.ne.jp

Web ページ

<http://www.tctt.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/>

07年度新執行部を選出 組合員の充実した討論発言



2月9日、全教豊中は116回の定期大会を開催。新年度07年度の役員・執行委員体制を選出しました。

大会では、この3月に退職の組合員から豊中での民主的な教育をすすめてきたことや青年からは組合に加入して取り組みへの参加でいろいろ学ぶことができたこと、組合に入っている学ぶことがよく働くことができることなど発言がありました。

07年度執行部

委員長	池田	和幸 (1中)
副委員長	岡本	正雄 (小曾根小)
	三輪	浩一 (桜井谷東小)
書記長	木田	好利子 (東豊中小)
書記次長	西山	美樹 (熊野田小)
	藤木	桂子 (寺内小)
会計委員	中野	淳子 (15中)
執行委員	中道	玲子 (高川小)
	川崎	真澄 (刀根山小)
	児玉	光司 (東豊中小)
	宮本	郷子 (北緑丘小)
	尾崎	孝子 (野畑小)
	突田	行生 (14中)



日本・世界で

あまり報道されていない情報

昨年未、毎日テレビなどが箕面の滝のことが報道しました。「箕面の滝は人口の滝？」という報道です。新御堂のつきあたりから、「水と緑の健康都市」(箕面・止々呂美)へぬけるトンネルをほつたため、トンネル内に水が流れ込み、この湧水を4か所で集めてポンプで水を上流に返しています。毎分7・4トンの水がトンネルに湧き出し、年間三〇〇〇万円の電気代をかけています。

「箕面の滝は人工の滝？」

年間三〇〇〇万円の電気代(税金)

子どもが主人公の卒業式、入学式を！

「日の丸・君が代」問題の大前提は 学校が教育課程を作っていくこと

二月十六日、全教豊中教組執行部は日の丸・君が代問題、教育委員会指導課と交渉。

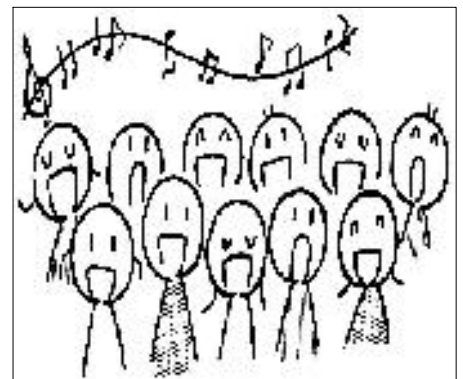
交渉の席上、指導課長は校長会議において、本年度も「法令順守、国旗の式場内掲揚、国歌斉唱、式次第への明記について昨年度おり指導した。」旨の説明を行いました。これに対して、組合から「『国旗は壇上正面に掲揚』『君が代斉唱はピアノ伴奏』といった東京都が学校現場に



強要した具体的な指導についてはどうか？」という指摘に対して、指導課長は「東京都における裁判の判例（注：憲法が全ての国民の思想信条の自由認めている中で、教職員への強制をも禁じた画期的な判決）も示し、学校現場の教育課程編成権をおかす具体的内容については一切触れていない。」と説明。

同時に、「職務命令」問題については、「（東京都の裁判の判例からも「日の丸・君が代」問題は）職務命令にはなじまない。」と校長会議でも指導している旨の答弁をしました。

卒業式や入学式当日、保護者に「内心の自由」について



説明する問題については、「言える立場ではない。」と答弁を回避しましたが、「大前提は、学校が教育課程を編成していくことである。」ということを指導課も認めており、東京都における裁判の結果も踏まえて、子どもが主人公の卒業式・入学式を行っていく必要があります。

採算の取れないことが明らかな「水と緑の健康都市」開発を大阪府は進め、税金のムダづかいをしています。さらに、このトンネルの他に、第二名神高速のため「第二箕面トンネル」の計画もあります。

自然を破壊するためムダな税金投入を大阪府は、見直しをすることもなくすすめるようとしています。



KYOIKU実践

3年 算数

割算導入 海賊劇「杯列・多分・仮比案」

(パイレーツ・オブ・カリビアン)

泉丘 奥村 登志美

少人数加配として3年の算数を担当して5年目になりました。子どもたちにできるだけリラックスして柔軟に幅広い思考をしてほしいと思つて、楽しい授業をすすめることをモットーとしています。

なかでも、どの子にも喜ばれるのが、割算導入で行う海賊劇「杯列・多分・仮比案」です。劇は2回に分けて行います。海賊用の帽子・サンダラス・バンドナ・ヒゲ・コップ・ワインの瓶などを用意しておきます。しましまもようのTシャツがある人は着てくるように前時にいっておきます。(雰囲気盛り上げるために私も着て教室へ)

一回目「わりざんでどんなこと? : 一人分はどれだけ?」

1H

セリフを大書きして黒板に貼り、みんなで1〜2回練習してから、海賊の親分子分の立候補を募ります。(6〜7人×3、4グループ・あたらなかつた子は2回目の劇でやつてもらおうので全員あたります。)

「親分〜! 世界一珍しいワインをみつけやした〜!」とワインの瓶をもって、子分1が走りこんでくるところから劇が始まります。親分が自分の分だけたくさん入れてから子分に分けていきます。いいかげんなわけ方をするので、もらえない子分が出てきます。「ずる〜い」となつて、どう

したらよいかみんな相談。

「これが割算でえもんですかい、親分!」「そうだ! 割算でえのはナ:」ここから後のセリフは各海賊チームで考えて最後に全チームが発表。劇に出ていない子どもたちもどのチームと意見が同じか意見を出し合います。次の時間は文章題で練習。

二回目「いくつに分けられる?」

1H

方法は一回目と同じです。一回目の時にあつていない子を重点的にあてて劇をしてみます。その後はまた文章題で練習をして、お話問題づくりをしてから、計算に入ります。

計算練習では「めざせ100点」などで「反復練習を充分してがんばったらできる!」と実感できるようにしています。

